

第Ⅱ章

当センターを立ち上げるまで

【副センター長】 福地 成 / 【企画研究部 部長】 渡部 裕一

1. 災害メンタルヘルスの歴史と『こころのケアセンター』

日本の災害時のメンタルヘルス活動において、先駆的な試みは1991年の雲仙普賢岳噴火火災と1993年の北海道南西沖地震と考えられる。このとき、地域保健師を中心に精神保健専門職と連携して、質問紙を用いたスクリーニング、地域における健康相談や訪問活動が行われた。これらの活動を通じて、大規模な災害の後には精神健康を害する住民が増えること、それらの住民は自ら相談につながるものが少ないこと、個別支援だけではなく地域を対象とした戦略が必要であることが確認された。

上記の経験を踏まえて、1995年の阪神淡路大震災では5年間にわたり、地域の回復を支えるための拠点として『兵庫県こころのケアセンター』が設立され、仮設住宅の住民を対象としてアウトリーチを中心に活動が展開された。これがいわゆる『コケセン』のさきがけであり、その後の自然災害や大事故後のこころのケア活動の礎となっている。その後、現在までに6つの『こころのケアセンター』が設立され、それぞれが特色ある活動を展開してきた（表1）。2004年の新潟県中越地震後に『新潟県精神保健福祉協会こころのケアセンター』、2011年の東日本大震災後に岩手・宮城・福島県の3県にそれぞれ『岩手県こころのケアセンター』『みやぎ心のケアセンター』『ふくしま心のケアセンター』、2016年の熊本地震後に『熊本こころのケアセンター』が設立された。法的な根拠に基づいた組織ではなく、緊急的に国の復興基金から民間組織に出資・委託され、その都道府県の精神保健を補完する機能を担うことが多い。運営方針については各都道府県に一任されており、受託した組織も異なれば、運営方針も多岐にわたっているのが実情であり、今後より詳しい分析が必要とされている。

表1 日本の心のケアセンター

1995年	1月	阪神淡路大震災（マグニチュード7.3） ・1995年6月に兵庫県こころのケアセンター開設 ・組織再編を行い、研究機能や診療機能を併設し、現在も稼働している
2004年	10月	新潟県中越地震（マグニチュード6.8） ・2005年8月に新潟県精神保健福祉協会こころのケアセンター開設 ・10年間の活動を経て、2015年3月に終結した
2011年	3月	東日本大震災（マグニチュード9.0） ・2011年12月にみやぎ心のケアセンター開設 ・2012年2月に岩手県こころのケアセンター開設 ・2012年2月にふくしま心のケアセンター開設
2016年	4月	熊本地震（マグニチュード7.3） ・2016年10月に熊本こころのケアセンター開設

2. 『みやぎ心のケアセンター』設立までの経緯（表2）

東日本大震災が発生した4日後の2011年3月15日には、精神科医療機関の呼びかけにより、宮城県庁において精神保健医療関係者を招集した会議が行われた。このときは現状の共有が精いっぱいであったが、その後は宮城県（障害福祉課）がイニシアティブをとる形で『心のケア対策会議』を定期的に行うことになった。この会議の中では、実際の被災状況、『心のケアチーム』の派遣状況、県内の精神保健の現状と課題、今後の方向性について議論が重ねられた。同年4月に入ると、回復の段階は急性期を過ぎ、その後数カ月～数年